

題名	作者	コメント	評価
1 「Y」の悲劇	有栖川有栖 篠田真由美 二階堂黎人 法月綸太郎	E・クイーンじゃありません。4人の作家の「Y」を冠した軽い推理短編集。暇つぶし用。	☆☆
2 17歳の殺人者	藤井 誠二	17歳が起こした4つの事件。この本で一番重きをおいている犯罪はあまりにひどくて読めなかった。	
3 「捨てる！」技術	辰巳 渚	読んでいるときは、もうすぐにでも捨てまくりたくなる。気になっているあの場所この場所、あんなもの。捨てられなくて困るモノのベスト3は、本、雑誌、洋服だということ。雑誌はともかく、あとの二つには納得。手をつけられない場所「聖域」を作らず、ここだけはモノを置かないという場所を作って(テーブルの上とか)捨て方を身に付けていくのがいいみたい。身体もモノもダイエットしてさっぱりと行きたいものです。	☆☆☆
4 命	柳 美里	TVで柳美里と東由多加が消えていこうとする命と芽生えた命のことを話しているのを聞いて読みたくなり、図書館に頼んだら3ヶ月待ちだった。この人の作品は「家族シネマ」以来。そのときの読みにくさはないけれど、他人をも巻き込んだ私小説。この前の裁判でも負けていたけれど、そりゃそうだろ、って思う。この人の持つ強さが女の人の悪いところをさらけ出しているようで、読んでいてどうにも居心地が悪い。	☆☆★
5 夏への扉	R・A・ ハインライン	健ちゃんからお借りしました。大好きな小説で読むのは3度目なのに、結局何度読んでも私みたいな人間は、好きなところが同じでそこしか覚えてないってことを再認識。2001年が現実になっても、タイムマシン、冷凍睡眠、家庭用ロボットの時代が来なかったのは残念。	☆☆☆☆

